

岐阜県不破郡関ヶ原町大字今須方言における 身体感覚を表すオノマトペ

江端義夫

はじめに

1. 調査対象地；関ヶ原町は東西日本の結節点にあり、伊吹山地と鈴鹿山地とに挟まれた森林地帯で、古来交通や軍事の要衝と見做されてきたところである。近世には中仙道の宿場町として、今須宿と関ヶ原宿とが置かれた。

昭和29年9月1日付けで、今須村と玉村と岩手村と関ヶ原町とが合併して、新しく関ヶ原町が成立した。今須と関ヶ原町とは約4km隔たっており、その中間に低い峠がある。

産業別人口の比は、1次8%、2次50%、3次42%である。今は兼業農家が中心であり、近隣都市への通勤者が多い。

人口は昭和63年3月31日現在で、関ヶ原町全体で10,718人となっている。人口は減少の傾向が著しいという。

2. 調査年月日；1991（平成3）年10月22日

3. 話者；松井永太 大正6年9月29日生、73歳
松井久子 大正14年4月5日生、65歳

以上の他に中野博（大正15年10月25日）氏が同席された。

4. 調査者・調査場所；江端義夫・中野博氏宅で調査。

5. 調査方法・調査時の様子；『方言資料叢刊』第2巻用調査票による質問調査。

（注）該当語形を先に掲出し、関連する話者の説明（く）で示す）や文例は、質問文の後に記す。

I 全身の感覚

1-1 快不快

さっぱり サッパリ

○汗をかいたが、風呂に入って～した。

以下のように、象徴詞を使わない表現も少なくない。

○エー エヤッタ。いい湯であった。

○アー キモチヨカッタ。ああ、気持ち良かった。

1-2 寒さ

がたがた ガタガタ

○寒くて寒くて～震える。

ぶるぶる ブルブル

○寒くて寒くて～震える。

ぞくぞく ゾゾゾガ

○風邪でもひいたのかな。～する。

すうすう ゾゾゾガ

○風邪をひいたみたいだ。背中が～する。

1-3 熱さ

ぼかぼか ポカポカ(多)、カッカ(少)

○酒を飲んだら身体が暖まって～してきた。

〈ホテッテ キタ。ほてってきた。この言い方も少なくない。〉

かっか ポカポカ(多)、カッカ(少)

○卵酒を飲んだら身体が～してきた。

II 皮膚の感覚

ひりひり ヒリヒリ

○海水浴で日焼けして背中が～する。

べたべた ベタベタ

○今日は暑い。汗で背中が～する。

むずむず シワシカ

○背中に何か入って～する。

〈木の葉などが背中に入って気持ちが悪いつき、セチカガ シワシカスルなどと言う。〉

もぞもぞ モゾモゾ

○背中に何か入って～する。

〈小動物などが背中に入って動くときのことば。〉

かさかさ カサカサ

○空気が乾燥していて、肌が～する。

がさがさ カサカサ

○空気が乾燥していて、肌が～する。

すべすべ ツルツル

○温泉に浸かって肌が～する。

つるつる ツルツル

○温泉に浸かって肌が～する。

ずきずき ズキズキ

○切り傷が～痛い。

ズキズキ、ヒリヒリ、シカシカ

○ころんで強く打ったところが～する。(ナンヤラ シカツトスルケド ウズキダシタ。何かずきつとするけれど、痛み出した。)

ひりひり 𠄎リヒリ

○擦り傷が～痛い。

𠄎リヒリ

○やけどしたところが～する。

ずきんずきん ズキズキ

○できものが腫れてきた。～する。

ぼとぼと 該当語なし。

○できものが腫んできた。～する。

* リンリンニ ハレテマッタ。ばんばんに

○しもやけがひどくなって、～する。(ただし、「～する」よりも、「～してしまう」形式に収斂しがちである。)

Ⅲ 頭部の感覚

3-1 頭

がんがん ガンガン

○熱があって頭の奥が～する。

くらくら フラフラ

○熱で頭が～する。

ずきずき ガンガン

○二日酔いで頭が～する。

ずきんずきん ガンガン

○二日酔いで頭が～する。

3-2 顔面

かっか 該当語なし

○恥ずかしくて顔が～する。(象徴詞を使わず、「ホテル」とか、「カマヲ アカラシデ」(顔が赤らんでくる。)とかと言う)

ぼっと 該当語なし

3-3 目

ちかちか ショボショボ

○テレビを見すぎて、目が～する。

しよぼしよぼ 該当語なし

○煙くて目が～する。(象徴語でなくて、「メガ アイテラレン」(目が開いておられない)などと言う。)

ごろごろ コロコロ

○目にゴミが入って、～する。

3-4 耳

きーん ジャンジャン、キーキー

○ああうるさい。耳がまだ～する。(質問文は「～とする」とあるが、回答は「～する」であった。)

じーん ジーン

○ああうるさい。耳がまだ～とする。

じくじく ズキズキ<痛み>、ジグジグ<膿の状態>

○耳の中が腫れて汁が出ているようだ。～する。

3-5 鼻

むずむず ムズムズ

○くしゃみが出そうで、鼻が～する。

ぐじゅぐじゅ アズアズ、ウジウジ<鼻汁が残留する状態>

○風邪をひいたようだ。鼻が～する。

つーん ツーン

○わさびを入れすぎて、鼻が～とする。

3-6 口

(口全体)

ねちゃねちゃ ネバネバ

○納豆は嫌いだ。口が～する。

* 該当語なし

○梅干しを丸ごと食べると、口が～する。(「アー スイー。」という程度で、象徴詞を用いない。)

* 該当語なし

○あんまり甘いものを食べたから口が～する。(「アー アマッタラジー。」という程度で、象徴詞を用いない。)

(歯)

がちがち ガタガタ

○寒かった。歯が～鳴っている。

かちかち ガタガタ

○寒かった。歯が～鳴っている。

ずきずき ツンツン

○虫歯がひどくなって、歯が～する。

ちくちく チヲチク

○虫歯がひどくなって、歯が～する。〈虫歯の痛みは、ツンツンの方がチヲチクよりも程度が著しい。〉

(舌)

ひりひり ヒリヒリ

○辛いカレーを食べたら舌が～する。

びりびり 該当語なし

3-7 喉

からから カラカラ

○水をくれ。喉が～だ。

いがいが 該当語なし

○あくの抜けていない筍を食べて、喉が～する。〈「エヨイ ナー。」とか「イヲラ ッポイ。」とかと言う。しかし、象徴詞は使わない。〉

いがいが ガサガサ

○この部屋は空気が悪い。喉が～する。

ぜえぜえ ゼーゼー

○息が苦しい。～いつている。

ひゅうひゅう ヒューヒュー

○息が苦しい。～いつている。〈「イヲラッゴイ」(息苦しい)程度が重い状態を示す。〉

IV 胴体の感覚

4-1 肩

こりこり コリコリ

○肩が凝って～する。〈どちらかといえば、「コリコリニ コットル」のように使用することが多い。〉

4-2 胸

どきどき ドキドキ

○ああ恐ろしかった。まだ胸が～する。〈咄嗟の場合〉

どきんどきん ドキンドキン

○ああ恐ろしかった。まだ胸が～する。〈ゆっくりした恐怖の場合である。〉

どっきんどっきん ドッキンドッキン

○ああ恐ろしかった。まだ胸が～する。

とくんとくん キューツト

○ああ恐ろしかった。まだ胸が～する。

とつくんとつくん 該当語なし

きゅっと キューツト

○悲しくて悲しくて胸が～しめつけられる。

むかむか ム万ムカ

○悪いものを食べたようで、胸が～する。

4-3 腹

(空腹)

ぐうぐう グーグー

○お腹がすいて～いう。

きゆるきゆる キューキュー

○お腹がすいて～いう。

(満腹)

たぶたぶ ダブダブ

○麦茶を飲み過ぎてお腹が～する。

ちゃぼちゃぼ 該当語なし

ちゃぶちゃぶ 該当語なし

ばんばん ボンボン

○食べ過ぎた。腹が～だ。

(腹下し)

ごろごろ ウジウジ

○何か変なものを食べたようだ。腹が～する。

ぐるぐる 該当語なし

びーびー キリキリ

○下痢気味だ。腹が～する。(お腹の状態を言い表すものである。)

4-4 胃

しくしく ム万ムカ

○困ったことが多くて(ストレスがたまって)、胃が～痛む。(「ム万ムカスル」状態のことを、「胃がドーンツスル」などと表すことがある。)

じくじく 該当語なし

きりきり 該当語なし

4-5 尻

むずむず モゾモゾ

○居心地が悪い。尻が～する。(相手の行為を見て表現したものである。)

もぞもぞ 該当語なし

V 手足の感覚

(手)

ふるふる ブルブル

○手が～震えて、箸が掴めない。

(足)

がくがく フラフラ

○歩きすぎて、足が～する。

(その他)

ぬるぬるヌルヌル

○気持ち悪い。～したものが足(手)にあたった。

ぬらっ(と) 該当語なし

VI 関節(骨)の感覚

ごきごき ゴリゴリ

○寝違えて首が～する。

ぐきぐき ゴキゴキ

○寝違えて首が～する。(他方で「ゴキツト ナッタ」の言い方もある。)

ばきばき ボキント

○そんなに曲げると、骨が～折れそうだ。

ばきばき 該当語なし

まとめ

1. 比較的に通語と異なった、注目すべき象徴詞が認められた。たとえば、それは、寒さを表す「ぞくぞく」を「ゾリゾリ」、背中にゴミなどが入って気持ちの悪い状態を表すときの「むずむず」を「シワシカ」、歯の痛みを表す「ずきずき」を「ツンツン」などである。
2. 「該当語なし」の場合は、必ずしもその状況を表す語が存在しないというのではない。むしろ、その状況を言い表す象徴詞が存在しないと考えてよからう。即ち、象徴化に訴えずに、直接に様態を叙述することがあるからである。
3. いわゆる「わんわん言葉」であるために、二形態素の反復が多い。また、通語形と似たものも、多い。共通性と独自性との二面を持つ方言であることは、一般的に、他の方言の場合と同じである。

(えばたよしお 広島大学教育学部)